

複式學級の種類

今、尋常小學校に於て、編制することを得べき複式學級の種別を擧ぐれば、(1)二箇學年を以て編制する場合、(2)三箇學年を以て編制する場合、(3)四箇學年を以て編制する場合、(4)五箇學年を以て編制する場合等あり。

複式學級の編制法

而して、以上孰れの場合に於ても、第三學年、第四學年等の如く、互に接近したる學年の兒童を以て編制するものと、第二學年、第四學年等の如く、互に隔絶したる學年の兒童を以て編制するものとの別ありと雖も、前者を以て教授上の原則とす。

第二章 複式教授の準則

第一節 教材の排列法

複式學級は、其の組織複雑なるを以て、教授の方法に於て

教材の排列法

も、亦特殊の考案を回らさざる可からざること多し。今一般複式教授に於ける教材の主要なる排列法、及び其の長短を擧ぐれば左の如し。

同教科同程度

一、同時に同教科同程度の教材を授くる場合。

甲、長所

イ、教師の教授力を分割すること少きを以て、常に有力なる直接教授をなすことを得べし。

ロ、他組の活動の爲に、兒童の注意を攪亂せしむること少し。

ハ、教師をして、教授の準備の爲に力を用ひしむること少し。

ニ、適當の時間に、適當の教材を授くる如く、優良なる日課表を調製し得べし。

乙、短所

イ、發達の程度の相違せる兒童に、同一教材を授くるを以て、適切なる教授を施すことを得ず。



同教科異程度

二、同時に同教科異程度の教材を授くる場合。

甲、長所

- イ、各組の兒童に、其の發達の程度に適したる教授を施すことを得べし。
- ロ、多少教授力を分割すと雖も、異教科の場合の如く甚だしからざるを以て、間接教授を少くすることを得べし。
- ハ、兒童の注意を攪亂せしむること稍少し。
- ニ、教師をして、異教科の場合より、教授の準備に力を用ひしむること少し。

ホ、適當なる日課表を調製することを得べし。

乙、短所

- イ、各教材の教授に固有なる繁閑を、調節すること困難なり。
- ロ、或教科の教授に於ては、音聲の衝突、其の他の作業が、相互の妨害をなすことあり。

三、同時に異教科を授くる場合、

甲、長所

異教科

イ、各組の兒童に各適切なる教授を施すことを得。

ロ、各教科の教授に固有なる繁閑を圖りて、互に調節することを得べし。

ハ、音聲の衝突、其の他の作業が、相互に妨害することを避くることを得べし。

乙、短所

イ、教師の教授力を分割すること多く、従つて間接教授を施さざる可からざること多し。

ロ、兒童の注意を攪亂する悞多し。

ハ、教師をして、教授の準備に力を用ひしむること多し。

ニ、適當なる日課表の調製困難なり。

以上述ぶるところに依りて、之を考ふれば、複式教授に於ける教材の排列に就きては、大體上、同教科異程度法を採るを以て、最も適當なる方法なりとす。

然れども、又學年の程度如何を問はず、如何なる教科目に



追加教材

ても、同時に**同教科同程度**の教材を配當して教授することを得るを以て、此の排列法を採用するときは、複式學級に在りても、通常の單式教授と略、同様の取扱をなすことを得るの利益あり。而して此の場合に於ては、學年の異同に従ひ、高學年兒童には、低學年兒童の學習する教材に、多少の追加教材を與ふるを利とすることあり。

同時に、**同教科同程度**の教材を配當して、各組に授くる場合の排列法次ぎの如し。

學級内兒童の程度			初學年度	次學年度	次々學年度
甲學年	乙學年	丙學年	甲學年教材	乙學年教材	丙學年教材

然れども、**算術・國語**(殊に讀み方)の如きは、一般に學年に依

教材の取扱

り、其の程度を異にすること甚だしく、爲に各組に同程度の教材を課すること困難なるを以て、第五學年以下に於ては、**同教科異程度法**を採用するか、若しくは**異教科排列法**を參酌して、兒童の自習を要すること多き圖畫・書き方等の如き教科と適宜に配合し、教師は教授の繁閑を調節して、其の教授力を適當に、各組に分配するを可なりとす。

第二節 教材の取扱法

既に述べたる如く、複式學級に於ても、學年の程度に拘らず、**同教科同程度**の教材を授くる場合に於ては、其の取扱法は、殆ど單式學級の場合に同じく、通常の教授と異なること少しと雖も、各組に**同教科異程度**の教材、又は**異教科**を授くる場合に於ては、即ち複式教授特有の工夫を要するに至る



複式教授の準備

べし。

複式教授に於て最も必要とする特殊の準則左の如し。  
 一、勉めて教授力の分割を少くすべし。複式教授に於ては、其の組数の多きに従ひ、教師は其の力を各組に分たざる可からざるを以て、其の一組に對する教授力は、自から分割せられ、直接教授の時間減少するが故に、延きて、教授の効果減殺せらるゝ虞あり。然れば、兒童の發達程度と、各教科の性質とを考へて、なるべく**組分を少くし**、或は同程度の教材を授け、或は程度を異にするも、同一材料を課する如くし、なるべく、教授力の分割を少からしめんことを圖るべし。

二、各組に對する教授の分配を適當ならしむべし。複式教授に於ては、教師は、豫め各教材教授の繁閑を考へ、各組に

二對する直接教授と間接教授(兒童の方面よりすれば自働作業)との配合を、適當ならしめざる可からず。概して**幼年兒童と、教材の困難なる場合**とは、直接教授の時間と回数とを、多くせざる可からず。又各組に對する直接教授の諸作用を適當に排列して、**音聲の衝突**及び注意の攪亂を少からしめ、統一徹底したる教授を施さんことを期すべし。

三、兒童に適當なる**自動的作業**を課すべし。教師は、或組に對して直接教授を施しつつある間、他の組の兒童をして、適當なる**自動的作業**(教師の方面よりすれば間接教授)に従はしめざる可からず。即ち**復習・練習・豫習**等を多く課することにして、この際、優等生・年長者等は適當に組の管理を維持すべし。

四、教授の諸作用は**敏活確實**なるべし。複式教授に於ては、教師は、豫め能く掛圖・小黑板、其の他の準備を遺憾なく調



へて、最も敏活に活動し、各組の児童をして、少時も無事閑暇に苦しましむることなく、然かも其の児童に與ふる印象は、最も明瞭確實ならざる可からず。

### 第三章 三個學年以下の複式教授

三個學年以下の複式教授

既に述べたる如く、二個學年又は三個學年を以て編制せる學級は、複式學級中、其の組織簡單なるを以て、従つて其の教授も亦複式教授中、最も單純なるものなり。

今尋常小學校に於て、三個學年以下の複式教授に於ける各科教授法の大要を述べん。

一、修身科 複式用修身書を用ひて、同教科同程度の教材を授け、數年反復の間に完結する如く排列すべし。

二、國語科 國語は、學年に依りて學力の相違すること稍大

なるを以て、異程度となし、學年相當の教科書を使用し、同時に之を授くるを以て本體とすべし。但し第五六學年以上に於てはこの限にあらず、又読み方及び書き方を配合して、教授力の分配を調和するも不可なし。若し、三個學年を以て編制するときは、其の一組に書き方又は圖畫を課し、他の二組に読み方を課し、略、次ぎの如く、直接教授と間接教授とを交錯し、兒童の自修努力を利用して、其の成效を期すべし。綴り方、書き方の教授上の作用は、読み方よりも稍單純なるを以て、其の方法は之によりて推知するを得べし。

備	豫	低	學	年	組	備	豫	高	學	年	組
	一						一				
	内容形式の問答整理						復習(舊教材)				
	(新教材)						二				
							読み方豫習(新教材)				



教	2 讀み方教授(新教材) 三同 練習 4 語句の探究 5 總括 讀み方・書き方・話し方及び語法・文法・文體に關する辨識の教授 六同 練習	授	7 應用 八複習(舊教材)	理 整
教	3 讀み方教授(新教材) 四同 練習 五語句の探究 6 讀み方・書き方・話し方・語法・文法及び文體に關する辨識の教授	授	七同 練習 八應用	理 整

(備考)算用數字は、教師の直接教授の進行を示し、漢數字は、兒童の自働的作業の進行を示す。

**三、算術科** 算術も亦國語と同じく、**同教科異程度**となし、各組の新教授と練習問題の教授とを適當に配合して、教授力の分割を避け、次ぎの如き順序を取るを可なりとす。場合に依りては、又書き方・綴り方等の異教科を組合はすも

不可なし。

備 豫	1 豫備問題計算 2 同 採答	教	3 新算法例示 四例題計算 5 新算法解説 6 同 練習 7 新算法の概括、他算法との比較辨識 八算法の理由説明發表の練習	授	9 應用課題計算採答算式検査	理 整
低 學 年 組	練	高 學 年 組	習	1 練習問題提出 二同 計算 三同 4 採答説明及び問答練習 五練習問題計算 六同 七同 8 同採答説明及び問答練習 九練習問題計算 10 採答		

**四、日本歴史・地理・理科** 二個學年のときは、全然**同教材**となし、又三個學年を以て編制せるときは、其の一組に書き方・圖畫等を課し、他の二個學年を合して一組となし、同程度



の教材を課して、二年間に完結する如く排列すべし。  
**五、技能教科** 圖畫・唱歌・手工・體操の諸技能科は、通常同教科  
**同程度**となして之を授け、數年間に全部の教材を完結す  
 べし、或は場合に依りては、他の教科を配合して、一部に異  
 程度のもを教授する必要あることあり。

#### 第四章 單級教授

##### 第一節 單級小學校の得失

**單級**とは、多級に對して用ふる語にして、尋常小學校又は  
 高等小學校に於て、全校兒童を一學級に編制せる組織なり。  
 單級尋常小學校は、其の組織最も複雑にして、教授の方法亦  
 最も複雑を極む。故に以下單級教授と稱するものは、主とし  
 て單級尋常小學校を指すものなり、かの四個學年又は五個

單級小學校の  
得失

學年を以て編制せる複式學級の教授は、主として此の單級  
 尋常小學校の教授法を參酌して、施すべきものなり。

##### 單級小學校の組織

教授上の長所  
 教授上の短所

(1) 教授上の得失 元來、多級小學校は、これを單級小學校に比すれば、教授  
 上遙かに有利在るは明かなり。然れども、後者に於ても、亦教授上の利便を有  
 せざるに非ず。即ち單級小學校に於ては、始終一人の教師が、全校兒童の教授  
 を擔任するを以て、各學年に於ける教材の連絡統一に精通し、従つて、能く統  
 一ある教授を施すことを得ること、及び兒童をして自動作業に服せしめ、反  
 復練習を累ねしむること多きを以て、教授の分量多きを得ざるも、收得確實  
 なる利益なり。是を以て單級小學校の兒童は、讀み方・書き方等の成績良好な  
 ること多く、殊に技能の熟練に於て然る場合多しとす。  
 然れども、單級小學校に於ては、教師に教授上の餘裕少きを以て、其の教式  
 を變更して、十分徹底する教授を施し難く、又兒童の心性に適合する教材を  
 選擇して、十分其の興味を惹起し、多方的の知識を興へ、及び心意の陶冶をな



訓育上の長所

すことを得ざるが如き短所あるを免れず。

(2) 訓練上の得失 然れども、訓練上に於ては、教師は始終一人にして、恰も一王國の如くなるが故に、其の指揮命令悉く一途に出て、互に撞着することなく、従つて兒童に一定の慣習を得しめ、最も意志を陶冶するに適せり、其の他、教師と兒童との關係の親密に越くが如き、又兒童相互の間に於ては、長幼相助け相補ふの點に於て、恰も家庭的なるが如き、又兒童をして能く自學自習をなさしめ、獨立・自營の念を養はしむる等の効大なり、故にこれを訓練上のみより見るときは、單級小學校は恰も理想的小學校たるの觀なきに非ざるなり。

經濟上の利益

(3) 經濟上の得失 單級小學校が經濟上に於て、多級小學校に比して利益多きことは、殊に説明を要せざるところなり。

之を要するに、單級小學校は、教授上に於ては、二三の缺點あるを免れざるも、其の他に於ては、概して利益多く、殊に山間に隔絶して、其の區域内の兒童數寡少なる村落等に於ては、之を數學級に編制して、數人の教師を聘し、教室を分つときは、經濟上の不利甚だ大なるを以て、此の編制法を採用せざる可

からざること多しとす。

第二節 單級小學校に於ける兒童の組分

及び排列

兒童の組分

單級尋常小學校の教授に於ては、兒童を數組に區分し、各科の教材をして、なるべく兒童の發達に適合せしむると共に、他方に於ては、又教師の教授力を分割せざらしむること、に、注意せざる可からず。然るに、此の兩主義は、互に兩立し難きを以て、從來此の組分法に就きては、論議少からずと雖も、大體上、**兒童心意の發達、各教科の性質及び學校の事情の三要件**に依りて定むべきものとす。

兒童高學年に至れば、既に基本的學習を了するを以て、便宜二個又は三個學年を合して、一組となすも可なりと雖も



初學年兒童の如きは之を一組(丁)とし、單獨の教材を授けざる可からず。次に、第二學年(丙)も之を一組とし、第三、第四學年(乙)、第五、第六學年(甲)は、教科の種類に依り、各二個學年を合して一組とすべし。概して四組以上に分つ時は、教授力を分割すること多きに過ぎ、不利益なりとは、學者の定説なれども、國語讀み方及び算術の兩科に限り、五組に分つことあるも、不可なしとす。今左に各教科目に於ける一般組分法を述べん。

一、修身科 修身は、主として直接教授に依り、兒童をして、理會し感動せしめざる可からざるを以て、之を教授法の方面より考ふれば、全級を一組として授くるを可とすれども、又兒童の發達に適切なる教材を選びて、之を適當に理會し、實踐せんとする意志を養はざる可からざるを以て、更に教授の效果の方面より考ふるときは、甲(第六、第五學年)、乙(第四、第三學年)、丙(第二學年)、丁(第一學年)の四組又は三組に分つを可とす。然れども、其の時間割の

編制困難なるを以て、全級を一組となし、同教科同教材として教授する場合と、甲組(第三學年以上)及び乙組(第二、第一學年)の二組に分ちて、時間を異にし、異程度となして授くる場合とを設くれば、略全級の統一と、各組兒童の發達に適合することを得べし。

二、國語科 讀み方、書き方、綴り方等の分科あれども、概して教授に繁閑の節多く、教科の配合、直接教授、間接教授の交錯に便利なり。甲、乙、丙、丁の四組に分ち、同教科異程度を本體とし、又適宜他の教科と配合せしむるを可なりとす。更に讀み方に限りて、又乙組を乙ノ一、乙ノ二となし、之を五組に分ち、一部を他教科と組み合すも、又不可なし。

三、算術科 學年に依り、兒童の學力は差違多きを以て、國語科と同じく四組にするか、又は乙組を二分して五組とし、同教科異程度とするか、又は一部を他教科と配合するを可とす。但し多少教材の排列に、變更を加ふる必要あり。

四、日本歴史科、地理科、理科 成るべく、直接教授を多くし、十分に内容の教授をなさざるを以て、第五、第六學年を合して一組とし、教授材料の排列に多







單級小學校の教授法

る可からず、兒童席次の排列法には、數種の方法ありと雖も、前圖の配置を以て、教授上管理上最も利便なりとす。然れども、教科目の種類により、多少の變更をなすことあるべし。



第三節 單級小學校の教授

單級小學校に於ける教授法は、即ち前述の複式教授法を

適用すべきものにして、只組織の複雑なるだけ、一層教材の連絡統一及び取扱に考案を回らし、尙**特別の細目**を編制し、實際に臨みて錯誤を來すが如きことなからしめざる可からず。今其の主要なる注意を擧ぐれば、次ぎの如し。

一、教師は、豫め十分の**準備**をなすべし。單級小學校に於ける、教授は、同時に數組の上に行はるゝものなれば、其の組に於ける**錯誤**、一事に關する失敗は、直ちに他の各組の授業に影響を來すべし。然れば、教師は、豫め教材の難易分量、取扱の順序、黑板の使用法、兒童自習の範圍、時間の豫定、實物・標本の**教示法**の如き、諸點に至るまで、悉く之を精細に考定し、且、又一二の部分に**錯誤**を生じたる場合には、如何に之を處すべきかを思量し、然して後、教室に臨むべし。**準備の周到**にして**缺漏**なきは、單級教授に於ける**成效**の



一大秘訣なりとす。

二、教師は、教授の**主位**となるべき組を豫定すべし。單級小學校に於ては、各教科の教材、必ずしも毎時間、各組の兒童に適當なるに非ざることあり。然るに、強ひて之を均等に授けんとし、又は其の教材の性質に依り、さのみ教師の力を要せざるものあるに、一樣に之に力を盡すときは、爲に他の組の教授を妨ぐることに少からず。然れば、單級教授に於ては、其の教材の性質を考へ、豫め教授の**主位**を定め、其の組に對しては、最も有効なる教授を施さざる可からず。概して**困難なる教材**、又は**新教材**を提示せらるゝ組、其の教材が、兒童心意の程度に最も適當せる組の如きは、如何なる場合に於ても、其の教授の**主位**たるべく、一般の練習、復習の教材、又は容易なる教材等を授けらるゝ組の如きは、

は、客位に立つべきものとす。

三、兒童に出來得るだけ**自動的作業**を課し、自力に依りて豫習し、又復習練習をなさしむべし。兒童が教師の指令に従ひて、能く自治、自修をなすか否かは、實に單級教授の効果に關すること大なるものなり。此の點に於て、單級小學校の教授は、**訓練と密接なる關係**を有するものと云ふべし。單級小學校に於ける教師は、平常、最も是等教授上必要なる訓練に力を盡し、其の教授の際には、毫末も兒童の管理の爲に、其の力を分つが如きことなからんことを要す。其他、高學年兒童の爲に、特に日課表中に自習時間を設けて、讀み方、算術、其の他の課題を自習せしめ、其の結果に就き、教師の檢閲指導を乞ふべき定めとなすときは、其の利益一層大なりとす。



四、児童をして、長幼優劣互に相助けしめ、以て教師の教授を補はしむべし。同級中に組長を設け、必要に應じ、教師の指命に依りて、問題の提出練習復習批評等をなさしめ、又は上組の優等生をして下組を導かしむるときは、教授力の及ばざるを補ふことを得しむるのみならず、又其の優等生の學力をして、確實ならしむることを得べし。

五、教授中出來得るだけ、力を低學年児童の爲に盡し、各教科の**基本的知識**を十分確實に收得せしめざる可からず。

(附)卷末に示したるは、算術及び讀み方を配合して、五組の教授を施す教授案にて、最も複雑なる場合の一例なり。

#### 第四節 單級小學校の訓練

既に述べたる如く、訓練は實に單級小學校の**生命**にして、

之が良否は、直ちに教授の効果に關係するものなり。然れば、教師は最も意を此に注ぎて、児童入學の當初より、漸次單級小學校に必要な習慣の養成に勉めざる可からず。即ち自治、自修の精神、長幼互助の情誼、規律を尊び従順に師命に従ふ風、勤勞を愛し奔走盡力を辭せざる習慣、公德を尙び全級を思ふの念等は、就中最も必要なものにして、尙、特に役員又は其の他適當なる當番等を定め、児童をして、常に諸種の役務に當らしむるを要す。



<p>第一編 緒論</p> <p>第一章 教育之概論</p> <p>第二章 教育之原理</p> <p>第三章 教育之實踐</p>	<p>第二編 各科教學法</p> <p>第四章 國文</p> <p>第五章 算術</p> <p>第六章 常識</p> <p>第七章 自然</p> <p>第八章 社會</p> <p>第九章 音樂</p> <p>第十章 美術</p> <p>第十一章 勞作</p> <p>第十二章 體育</p> <p>第十三章 衛生</p> <p>第十四章 公民</p> <p>第十五章 英語</p> <p>第十六章 法文</p> <p>第十七章 德文</p> <p>第十八章 俄文</p> <p>第十九章 日語</p> <p>第二十章 算術</p> <p>第二十一章 常識</p> <p>第二十二章 自然</p> <p>第二十三章 社會</p> <p>第二十四章 音樂</p> <p>第二十五章 美術</p> <p>第二十六章 勞作</p> <p>第二十七章 體育</p> <p>第二十八章 衛生</p> <p>第二十九章 公民</p> <p>第三十章 英語</p> <p>第三十一章 法文</p> <p>第三十二章 德文</p> <p>第三十三章 俄文</p> <p>第三十四章 日語</p>	<p>第三編 各科教學法</p> <p>第三十五章 國文</p> <p>第三十六章 算術</p> <p>第三十七章 常識</p> <p>第三十八章 自然</p> <p>第三十九章 社會</p> <p>第四十章 音樂</p> <p>第四十一章 美術</p> <p>第四十二章 勞作</p> <p>第四十三章 體育</p> <p>第四十四章 衛生</p> <p>第四十五章 公民</p> <p>第四十六章 英語</p> <p>第四十七章 法文</p> <p>第四十八章 德文</p> <p>第四十九章 俄文</p> <p>第五十章 日語</p> <p>第五十一章 算術</p> <p>第五十二章 常識</p> <p>第五十三章 自然</p> <p>第五十四章 社會</p> <p>第五十五章 音樂</p> <p>第五十六章 美術</p> <p>第五十七章 勞作</p> <p>第五十八章 體育</p> <p>第五十九章 衛生</p> <p>第六十章 公民</p> <p>第六十一章 英語</p> <p>第六十二章 法文</p> <p>第六十三章 德文</p> <p>第六十四章 俄文</p> <p>第六十五章 日語</p>	<p>第四編 各科教學法</p> <p>第六十六章 國文</p> <p>第六十七章 算術</p> <p>第六十八章 常識</p> <p>第六十九章 自然</p> <p>第七十章 社會</p> <p>第七十一章 音樂</p> <p>第七十二章 美術</p> <p>第七十三章 勞作</p> <p>第七十四章 體育</p> <p>第七十五章 衛生</p> <p>第七十六章 公民</p> <p>第七十七章 英語</p> <p>第七十八章 法文</p> <p>第七十九章 德文</p> <p>第八十章 俄文</p> <p>第八十一章 日語</p> <p>第八十二章 算術</p> <p>第八十三章 常識</p> <p>第八十四章 自然</p> <p>第八十五章 社會</p> <p>第八十六章 音樂</p> <p>第八十七章 美術</p> <p>第八十八章 勞作</p> <p>第八十九章 體育</p> <p>第九十章 衛生</p> <p>第九十一章 公民</p> <p>第九十二章 英語</p> <p>第九十三章 法文</p> <p>第九十四章 德文</p> <p>第九十五章 俄文</p> <p>第九十六章 日語</p>
--	---	---	---

中華民國九年五月一日出版

### 近 輓 各 科 教 授 法 終

（此處為正文內容，因圖像模糊，文字難以辨認，僅能看見大致的排版結構）



近 軌 各 科 教 授 法 終

尋 常 科 單 級 教 授 例 案 (國 語 及 算 術 科)

丁 組	丙 組	乙 組	甲 組
<p>教材 讀本卷一、カニ</p> <p>目的 形式 { 新文字ノ接續助辭</p> <p>内容 サルニカニ童話</p> <p>準備 讀本掛圖</p>	<p>教材 讀本卷三、クケ</p> <p>目的 形式 { 新出漢字、順序、數詞、クベラレ、被役助動詞、用法</p> <p>内容 竹ノ効用</p> <p>準備 作ノ漢字ニ假名ヲ附シテ板書ス</p>	<p>教材 暗算 四則雜題 6.</p> <p>筆算 二數及三數ノ加法 (末位ノ零トナル場合) 練習問題 15.</p> <p>目的 以上教材ヲ敏速ニ計算セシム</p> <p>準備 暗算及筆算問題ヲ板書シタル小黑板ニ枚</p>	<p>教材 讀本卷九、昔ノ旅</p> <p>目的 形式 { 難儀、泊ル、川止ノ新出漢字、肩車、渡般、テ、天龍ノ川ノ讀方</p> <p>内容 昔ノ旅行ノ困難ナリシ事</p> <p>準備 新出漢字ニ假名ヲ附シタル小黑板</p>
<p>方法 直接教授(豫備) 讀本掛圖ニツキ觀察 目的指示 サル、カニノ形體、慣習等ニツキテ問答 サル、カニ童話問答</p> <p>二、間接 サル、カニ、書方復習</p> <p>三、間接</p> <p>四、同前</p>	<p>方法 一、間接教授 前回教材復習 讀方新教材豫習(參) 書方練習</p> <p>二、直接(豫備提示) 讀方及意義教授 作ノ字書キ方</p> <p>三、間接</p> <p>四、讀方練習</p> <p>級長指名(六人)</p>	<p>方法 一、間接教授 暗算 73+26= 86+38= 7×7+11= 5×6+26= 7×6-24= 8×9-43=</p> <p>二、間接 級長採答</p> <p>三、直接 以上ノ檢閲 筆算問題提出 46+44= 62+28= 35+45= 57+43= 51+59= 69+59= 62+48= 96+74= 16+22+12= 23+14+23= 32+43+35=</p>	<p>方法 一、間接教授 暗算 II組=同</p> <p>二、II組=同</p> <p>三、直接 V組=同</p> <p>6897÷51= 9278÷82= 4363÷82=</p> <p>四、間接(計算)</p> <p>四、五、六、七、同前</p>
<p>5. 直接(提示) 新字教授發音、書方練習ト助辭教授 讀本挿繪觀察</p> <p>六、間接(總括) 讀方練習級長指名(八人)</p> <p>七、讀方練習級長指名(八人)</p> <p>八、ニ字結構觀察書方練習</p> <p>九、直接(應用) トノ接續助辭ノ用法</p> <p>練習 ニツキタル名詞ノ列舉、書方練習、檢閲</p>	<p>五、間接 書キ方練習</p> <p>六、直接(總括) 新字及順序數詞、被役助動詞吟味</p> <p>七、間接 讀方練習</p> <p>八、間接(應用) 竹ノ効用話方練習 書取練習 人ハ竹ヲナニスルカ、</p>	<p>四、計算</p> <p>七、直接 採答及檢閲 問題提出 28+48+14= 26×26+45= 37+27+36=</p>	<p>四、間接(計算)</p> <p>六、間接 地圖ニツキテ東海道ノ順路コトニ箱根、富士、大井、天龍等ノ山川ノ位置觀察</p> <p>七、八、九、間接(總括) 讀方練習</p> <p>新文字ノ吟味</p>



丁組	丙組	乙組	甲組
<p><b>讀方</b></p> <p>教材 讀本卷一、カニサル ト、カニ</p> <p>目的 形式 = 新文字ノ接續助辭</p> <p>内容 サルニカニ童話</p> <p>準備 讀本掛圖</p>	<p><b>讀方</b></p> <p>教材 讀本卷三、クケ、</p> <p>目的 形式 作 新出漢字 クハニ、順序數詞 クハニ、被役助動詞 用法</p> <p>内容 竹ノ効用</p> <p>準備 作ノ漢字ニ假名ヲ附 ッテ板書ス</p>	<p><b>算</b></p> <p>教材 暗算 四則雜題 6.</p> <p>筆算 二數及三數ノ加法 (末位ノ零トナル場合) 練習問題 15.</p> <p>目的 以上教材ヲ敏速ニ計算セシム</p> <p>準備 暗算及筆算問題ヲ板書シタル小黑板二枚</p>	<p><b>讀方</b></p> <p>教材 讀本卷九、昔ノ旅</p> <p>目的 形式 難儀、泊ル、川止ノ新出漢字、肩車、渡般テ、天龍川ノ讀方</p> <p>内容 昔ノ旅行ノ困難ナリシ事</p> <p>準備 新出漢字ニ假名ヲ附 ッタル小黑板</p>
<p><b>方法</b></p> <p>1. 直接教授(豫備) 讀本掛圖ニツキ觀察 目的の指示 サル、カニノ形體、慣習等ニツキテ問答サル、カニ童話問答</p> <p>2. 間接 サル、カニ、書方復習</p> <p>3. 間接 四、同前</p>	<p><b>方法</b></p> <p>1. 間接教授 前回教材復習 讀方新教材豫習(參)書方練習</p> <p>2. 直接(豫備提示) 讀方及意義教授 作ノ字書キ方</p> <p>3. 間接 讀方練習 級長指名(六人)</p>	<p><b>方法</b></p> <p>1. 間接教授 暗算 73 + 26 = 86 + 38 = 7 × 7 + 11 = 5 × 6 + 26 = 7 × 6 - 24 = 8 × 9 - 43 =</p> <p>2. 間接 級長採答</p> <p>3. 直接 以上ノ檢閲 筆算問題提出 46 + 44 = 62 + 28 = 35 + 45 = 57 + 43 = 51 + 59 = 69 + 59 = 62 + 48 = 96 + 74 = 16 + 22 + 12 = 23 + 14 + 23 = 32 + 43 + 35 =</p>	<p><b>方法</b></p> <p>1. 間接教授 暗算 II組 = 同</p> <p>2. 間接 II組 = 同</p> <p>3. 直接 I組 = 同 6897 ÷ 51 = 9278 ÷ 82 = 9278 ÷ 82 = 9278 ÷ 82 = 9278 ÷ 82 = 4363 ÷ 82 = 9278 ÷ 82 =</p>
<p>5. 直接(提示) 新字教授發音、書方練習ト助辭教授 讀本挿繪觀察</p> <p>6. 間接(總括) 讀方練習級長指名(八人)</p> <p>7. 字結構觀察書方練習</p> <p>8. 直接(應用) トノ接續助辭ノ用法 練習 ニツキタル名詞ノ列舉、書方練習、檢閲</p>	<p>5. 間接 書キ方練習</p> <p>6. 直接(總括) 新字及順序數詞、被役助動詞吟味</p> <p>7. 間接 讀方練習</p> <p>8. 間接(應用) 竹ノ効用語方練習 書取練習 人ハ竹ヲナニスルカ、ガ人ノタメニナルカラカケ、 ガイート云フ語ヲ用ヒテ單文ヲ作レ、 ツカハレテ單文ヲ作レ、 クハニラレテ單文ヲ作レ</p>	<p>7. 直接 採答及檢閲 問題提出 28 + 48 + 14 = 26 × 26 + 45 = 37 + 27 + 36 = 47 + 54 + 49 =</p>	<p>8. 直接 採答及檢閲 問題提出 8439 ÷ 45 = 9278 ÷ 82 = 9278 ÷ 82 =</p>
<p>4. 直接(豫備、提示) 挿繪説明(武士及雲助ト稱スル當時ノ人夫ノ狀況) 大井川渡ソノ狀況、讀方及意義教授、</p> <p>5. 間接 讀方練習(低)級長指名(六人)</p> <p>6. 間接 地圖ニツキテ東海道ノ順路コトニ箱根、富士、大井、天龍等ノ山川ノ位置觀察</p> <p>7. 八、九、間接(總括) 讀方練習 新文字ノ吟味</p>	<p>4. 直接(計算) 四、五、六、七、</p>	<p>10. 直接(應用) 書取 クテソニテ ナソニ イタシトチフ トマリアシタ 儀ノ字ヲ用ヒタル熟語 泊ノ字ヲ用ヒタル熟語</p>	



一	...	...	...	...
二	...	...	...	...
三	...	...	...	...
四	...	...	...	...
五	...	...	...	...
六	...	...	...	...
七	...	...	...	...
八	...	...	...	...
九	...	...	...	...
十	...	...	...	...

大正十一年十二月十五日印刷  
 大正十二年六月十五日訂正再版印刷  
 大正十二年六月五日訂正再版發行

定價	金九拾錢
大正十二年度臨時	金壹圓五拾參錢



著者 小川 正行  
 著者 佐藤 熊治郎  
 著者 篠原 助市  
 著者 大葉 久吉  
 發行者 佐々木 俊一  
 印刷者 佐々木 俊一

東京市日本橋區本石町二丁目拾五番地  
 東京市小石川區西江戸川町貳拾壹番地

印刷所 富士印刷株式會社

發行所 關西專賣

東京市日本橋區本石町二丁目  
 振替口座東京二八〇番  
 大阪市西區阿波堀通四丁目  
 振替口座大阪四三番

東京寶文館  
 株式會社 大阪寶文館



287  
607

六  
五



東  
京  
大  
學  
文  
學  
部  
藏  
書  
印

大  
學  
文  
學  
部  
藏  
書  
印



終

